

令和6年度 これまでの経過

【第1期モデルエリア】

ギャップの閉塞が進み、林床への日射量が減り、実生や補植苗の枯損が見られました。エリア3-3-1（クヌギ林）では萌芽枝の芽かきを行いました。エリア3-2（コナラ林）では根元の樹洞にキノコが発生したコナラについて、危険回避のため伐採しました。

【第2期モデルエリア】

残された落葉樹の樹冠が広がらず、ギャップの閉塞が進みません。3-13では補植苗の生長は全エリアの中で最も良好だった一方、3-30-1（エノキ林）では補植用の植穴が湛水して水が引かず、苗の枯損が目立ちました。

【第3期モデルエリア】

エリア全体に小さなギャップを均等に配置した3-3-2はギャップ率が19%となり、下草がほとんどありませんでした。落葉樹を取り囲む常緑樹を伐採した3-30-2はギャップ率が29%とほぼ目標通りでしたが、残された落葉樹の樹形が悪く、樹形を整えるための追加施業の必要性を検討します。

モデルエリアの課題と施業内容

【草刈り頻度と時期】

モデルエリアの下草刈りは、調査前に1回と調査後に1回の2回刈りとしてきましたが、樹冠の閉塞が進まないため、林床植生があまり変化しませんでした。調査との兼ね合いで時期を固定する必要があるので、調査前の下刈り回数を1回から2回に増やすこととしました。

【台場クヌギの芽かきについて】

萌芽枝が太く育ってきていることから、芽かきを実施することとしました。切り株の高さを1mや1.5mとしたものは切り株の樹皮の劣化が激しく、頂部と根元で萌芽枝を残す処理としました。

【胴吹き個体の切下げ】

エリア3-13の落葉樹の枝張りの回復を図るため、園路沿いのケヤキ2本で切下げを実施しました。今後、樹形の回復について、検証を行う予定です。

補植苗の生育状況について

- 3-2：補植苗の定着率は85%で、5エリア中最低ですが、定着した苗の生育状況は良好でした。ギャップ率低下による光量不足が推察されました。
- 3-13：補植苗の定着率、生育状況とも良好でした。ギャップが大きいため、光環境は良好です。
- 3-30-1：移植苗木の生育は良好でした。植穴が湛水した箇所の補植苗の枯損が目立ちました。
- 3-3-2：林内への光量不足により、クヌギの苗の枯損が目立ちましたが、ウリハダカエデの生育は良好でした。
- 3-30-2：定着率は100%でした。3-30-1で枯損した樹種も3-30-2では定着していました。